



## 『島の秋』

吉田絃二郎

吉田絃二郎は、明治十九年佐賀県に生まれ、幼少期に佐世保に移り住んだ。早稲田大学在学中に、対馬要塞砲兵大隊に入隊し生活した体験をもとに描かれた作品が出世作『島の秋』である。対馬の鉱山の労働者（「親方」）が妻子を亡くし傷心のまま島を去ろうとする姿を、付き人の若者（「清さん」）の回想を交えながら描いている。碑文はその一節である。

「え なぎ宜え風になつたやうぢやのう。」

親方は沖を見ながら後から歩いてゐる清さんに話しかけた。黒い潮の上を幾十里の間幾萬とも知れぬ白い帆や紫の帆が動くともなく動いてゐた。

（後略）

文学碑は、昭和三十二年、上見坂公園内に巖原・美津島両町と対馬文化聯盟によって建立された。